

平成29年度 北海道小学校長会地区活性化支援授業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 旭川
- 2 事例報告学校名 : 旭川市立雨紛小学校
- 3 報告者 : 校長 横山市子
- 4 キーワード : 地域の教育力を生かした教育活動の工夫



1 はじめに

明治28年に開校し、122年目を迎えた本校は、JR旭川駅より7.8Km、旭川市の南部郊外に位置する美瑛川左岸の農業地帯にあります。この地区は上川地方の「水田発祥の地」と上川開発史に記載され、神居町雨紛に記念碑があります。米作が中心ですが、近年はメロンや野菜などのハウス栽培も増加の傾向にあります。

校下の戸数は200戸弱、在籍児童戸数10戸がPTA正会員で、保護者の中には本校の卒業生が多く、学校教育への協力は絶大です。運動会は、雨紛地区市民委員会及び、旭川市雨紛季節保育所と合同で盛大に行われています。また、学芸会は地域の方々をはじめ、保育所園児や地域にある介護施設のお年寄り等、多くの方が観覧してくださり、学校は地域の文化センター的な役割を果たしています。

全校児童は15名、完全複式の小規模校なので、全校で取り組む活動と、小規模校ならではの個別的な配慮が行き届く指導が展開されています。本稿では、地域の人材と郷土の伝統芸能を生かした特色ある教育活動について紹介します。

2 地域の教育力を生かした特色ある取組

(1) 郷土芸能「雨紛^{はやし}囃子」と雨紛子ばやし活動

「雨紛囃子」は、昭和20年に東京方面から上雨紛に移住した緊急開拓団の一人が、故郷の埼玉県新座市大和田に伝わる「大和田囃子」を基にして考案、開拓団の子どもたちに手ほどきしたのが始まりと言われています。それは「雨紛囃子」と名付けられ、雨紛の若者にも呼びかけて昭和21年「雨紛囃子保存会」が設立されました。

以来「雨紛囃子保存会」が中心となって地域に伝承しています。「雨紛囃子」には楽譜がなく、笛やすりがね、演じる人の踊りも人から人へと伝わってきました。

子どもの演目は雨紛子ばやしといい、準会員や子ども連という形で伝承されてきました。雨紛小学校では、昭和56年から雨紛子ばやしを「ふるさと学習」として取り入れ、36年間続いています。子どもたちへの指導は主に「雨紛囃子保存会」の皆様をお願いしています。平成28年度は、6月の雨紛神社祭と10月の学芸会での発表会に向け、雨紛囃子鑑賞会や保存会の方の講話の他、18回もの指導を受けるなど、全面的に練習に協力いただいております。現在は、学芸会の発表に向けて意欲的に練習を行っています。



第1回目は保存会の方から雨紛囃子の歴史を聞きます



地域のお祭りでの発表



おはやしを教わる低学年

(2) 旭川市農業センター(花菜里ランド)とのかかわり

学校の裏には旭川市農業センター(花菜里ランド)があります。苗の植え付けやお世話の仕方は、センターの職員の方が農園先生として指導して下さいます。作物についての知識が豊富なので、私たち職員も大変勉強になります。毎年かかわっていただく職員の方と子どもたちはすっかり顔なじみで、全校児童が花菜里ランドの雑草取りをボランティア活動として行ったり、児童会のリングプル回収に協力していただいたりしています。



何でも知っている農園先生

(3) 教育課程における位置付け

これらの活動は、総合的な学習の時間の「雨紛の伝統」「雨紛子栽培菜園活動」と生活科の「さかせてみたいな」「大きくそだてみんなの野さい」として教育課程に位置付けられています(低学年の雨紛子ばやし活動は余剰時数で実施)。ここでは第5・6学年の場合を例に説明します。

雨紛子ばやしは「雨紛の伝統」という単元名で、その目標は、『郷土の伝統芸能「雨紛囃子」について調べたり、雨紛子ばやしを体験したりすることを通して地域のよさや地域の人たちの願いに気付き、地域の一員として守り、受け継ぐためのあり方を考えることができる。』となっています。

「雨紛子栽培菜園活動」の単元では、評価項目に「人と豊かにかかわる力」があり、評価基準は『友達や地域の人と交流しながら課題を解決することができる。』としています。

本校ではこのように、繰り返し「人・もの・こと」とかかわることを通して、自分自身のよさを自覚し、よりよく生きようとする力を育てています。

総合的な学習指導計画 5・6年

学 期	月	単 元			関連教科
		雨紛子栽培菜園活動 (地域・自然) (2 6)	ふるさと学習 「雨紛の伝統」 (地域・伝統・文化) (3 2)	みんな生きている (福祉) (1 2)	
1	4	課題の設定 (栽培計画) (4)			理 科 社 会 国 語 家庭科 保 健 体 育 図 工
	5	情報の収集 (6) (植え付け・世話・観察など)			
	6		課題の設定 ・講話を聞く (1) ・鑑賞会 (2)・ 太鼓の練習 (2) (4)		
2	7		情報の収集 ・太鼓・踊りの練習 (2)		
	8			課題の設定 (2)	
	9	情報の収集 (3) (世話・観察) 整理・分析 (収穫)		情報の収集 (調査活動・体験活動) (1)	
	10	整理・分析 (6) (収穫) 表現・まとめ (稲の後始末・会食)		情報の収集 (3) (調査活動・体験活動) 整理・分析 (交流・訪問活動)	
	11		情報の収集 (3)		
	12			表現・まとめ (2)	
3	1				
	2		整理・分析 (2)		
	3		表現・まとめ (3)		

3 キャリア教育としての人材活用

小規模校の悩みは、「かかわる人が少ないこと」です。友達も先生も大きな変化がないといった状況は安心感というメリットがありますが、人間関係が固定化してしまい、違う考え方を理解する力や自分の考えを説明する力が弱いというデメリットもあります。ですから、地域人材を活用し、体験的な活動と他者とのかかわりを通して学ぶ機会を意図的に設ける必要があります。

雨紛小では、雨紛囃子保存会と旭川市農業センターを生かした活動を貴重な教育資源ととらえ、本校がキャリア教育で目指す「夢や希望をもって努力し、自分らしく意欲的に学び続ける児童」を育てていきたいと思えます。

4 おわりに

これからの学校は、子どもたちが地域で学び地域で育つために「地域と共にある学校」への転換をはからなくてはなりません。コミュニティースクールの構想を視野に入れ、学校教育目標を見直し、教育課程編成に力を注いでいく所存です。